

ふるさと奥尻通信

平成30年12月14日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

明治初期、北海道庁が注目していたのは奥尻島の地理・地誌であった。国郡の策定に伴い、奥尻島は後志国に編入されたが、さらに島内4ヶ村の境界線を引く作業が力説されている。

特集 奥尻島探訪記 その②

前号よりつづき「島の周囲は未だ実測して整理していないが20里以内の土地だ。北海道でも西北の隅に位置するので、小樽、石狩その他の港へ往復する船は島に寄らない。島民が言うところの上りの航路である。また、江差を発して福山(1)、函館へ向かう下りの航路も風にはばまれて、一時的に島に停泊できない。惜しむらくは、島に良い港湾がないことだ。北海道西部で往来する船舶が波風から避けることのできるの、この島において他に理由がない。海産物が豊富なことは全道一番であるという言は、誇大のようでもあるが、海鼠(ナマコ)、石決明(2)は夏場の漁では確かに信用できる。西北の稲穂岬(3)と東南の青苗岬に灯台を建設して船の沈没を救うことは不可欠で一大急務である。これに次いで、山道の開通(4)、郵便の設置、薪炭木材の輸出、小汽船の運行も同様に至急を要する。

四ヶ村の境界を定める事と、山林の区画を正すことの2点は最も困難だが、周囲20里の全島中、わずかに海岸沿いに往来する道が1本あるのみである。すこしばかり30戸の島民が漁業に励んでいる。故に、春、冬の降雪の際にわずかに薪炭を採る



滝ノ潤岬より西側の荒々しい海岸風景

といえども、自家用にするのに他ならない。これを製材して輸出することを考えている者はいない。これが全島中で一本の近道もない原因である。西海岸の難破船が魚の腹に葬られるのを免れても、最後は凍死、餓死するゆえんである。島の東海岸と西海岸を通じる道がなくて良いだろうか。前年、斎藤俊治(5)の進言によって、その地形を考慮すると、釣掛村の釣掛川より西海岸の幌内までの距離は約4里。これは前述の通り島の中心にあって、便利な近道である。村民らもずっと早くから希望しているものである。河流より山麓近くの光のあたらない陰に生える悪木を伐採して漁民の閑散期に薪炭に加工させることで、山道を開通させるのに都合よくしたい。

まず草木を切り、茂みを焼き、あるいは川を上り、苦労してその源流に達することができれば。そのために猿のように登り、蟹のように歩き、険しい崎を回った。山中の樹木はみな数百年のものである。その大きさは、牛数頭を見えなくさせるほどだ。また、樹木が合わさって日光を通さず、陰湿もはなはだしい。おおむねこれを言えば、全島でことごとく樹林を越えていくことは出来るけれども、その濃密に繁茂していることは容易に推察できる。時々、東海岸、西海岸の海に舟を浮かべて、先ず山や谷、川や沢を形状や深さをよく見て、各村の村民を誘導して実践、経験させ、境界区画を正してまさに標柱を建設しよとした。今の島民は無知である。目下、戸数と人口の少ない事を憂いで、境界区画の制定等において、もとより気にしないものようだ。しかしながら、将来、入植者が多くなり、その地力が困り果てた時、色々と異論が出ることは必至である」



冬の荒天時の稲穂岬周辺

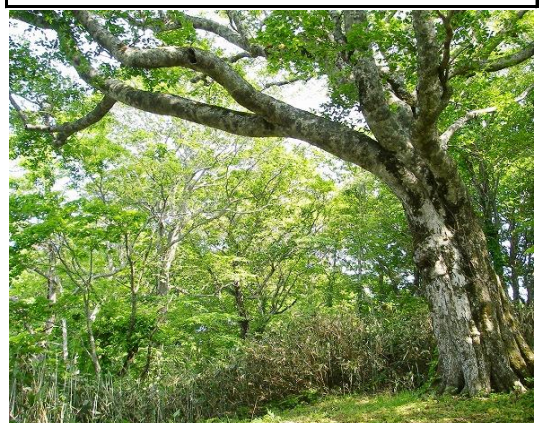


東海岸 長浜の花崗岩(ゴマ石)

◆用語解説と註◆

(1)	のちに福山町。昭和15年より松前町。
(2)	せっけつめい。アワビの殻の粉末。漢方薬。
(3)	明治24年に稲穂灯台が点灯。
(4)	西海岸へ通ずる、現在の中央線のこと
(5)	役人と思われるが不明。

当時から、ナマコやアワビが豊富であることに注目が集まっている。また、島内に横断するような便利な道路がないことについて、全島の生い茂る草木を伐採し、炭焼きすることで結果的に道路を開削する案を述べている。島は草木が繁茂し、未踏の地が多く、先ずは島の全容を把握し、境界を整理して、村民の意識を向上させようとしていることが判る。



ブナの大木(復興の森)



函館棧橋に係留された海上旅館「景福」と函館山をバックに記念撮影する奥尻中学校生徒です。昭和20年代後半と思われる。かつて下関・釜山航路や青函連絡船として就航していた同船を鉄道弘済会が借り受けて、同25年より営業したユニークなホテルでした。被災した青函連絡船乗務員の遺族や整理解雇者の雇用先として考案されたものでしたが、船体の老朽化もあり、同31年末で営業を終了してしまいました。



学芸員オスメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

昭和の消えた仕事図鑑
澤宮 優、平野恵理子

長い人類の歴史の中で、様々な職業が生まれては消えてきた。その中で、近代化の著しいここ100年間、「昭和」の時代に生まれて消え、または辛うじて残る職業について解りやすい図解したのが本書。押し屋、電話交換手、金魚売り、サンドイッチマン、傷痍軍人、タイピスト、羅宇屋、ニコヨン、エンヤコラ、紙芝居屋、丁稚、寺男、髪結いなどなど。



奥尻のつり 上半期

今年は春ボツケの回遊が例年よりも多く、漁師の網から吉報が聞かれました。おかげで、沿岸の釣り人にもホツケの便りが届きました。中でも、宮津弁天宮の真下、弁天岬では40cm前後の春ボツケに時おり50cmを超える大型の根ボツケが混じり、他にもアブラコやカジカなど、春らしい磯の魚が次々と釣れていました。また、今年はガヤ(エゾメバル)が好調、34センチもの良型が上がったそうです。5月以降は例年通りのカレイ、ソイ釣りが主戦場、奥尻港ではクロガシラカレイで48cmもの大物が出ていました。奥尻島全体が良好な釣り場ですが、案外港内の方が大物が出るものなのです。それでもカレイ類は50cm級が限界のようで、室蘭港の名物「座布団カレイ(60cm級)」はどうやら生息していないようです。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第33回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より
た果袋だしたけが祖けねだた入た墓な鳥いのる何
。物かけけーに起母ねんぞ、り。参っ賊るで様處今ハ
だらでなといきさべだーお乍母りたつ。、だの日月
っ何も、言くなんせもと祖らはか。け盆大。家日十
たや食佛っんいがーん言父ー何ら眼まもし今では三
。らへさただしーと、っさ清や帰をできた年もは日
弟くーんらでけん言行たん三らっ覚寝っ生は御盆へ
とれとさ、起、、っき。が何手てまると活鳥馳だ。木
二た今上母こそ俺たたくー待しに來し事賑が賊走。曜
人。持げはされーらく俺って持たしたにや良つを又日
し菓ったーねに度傍たばて來っ所たしかくけ作墓
て子て下仕か鳥呼にっ起いなてだ母てだながっ参
喰と來り方っ賊ん居てこたか家っ達横ぞっ良てり
った物ね っだた行さんんに がに。ていい

の録破で果掘広そ岡わ在装
一す壊し、調の2れす工町
つるさた遺査り対遺まる事道
でのれ。構しを応跡し埋に米
すもる開・た判をがた蔵伴岡
。行遺発遺も断協立。文っ二
政跡行物のす議地計化て号
機を為はでるしし画財、線
関調に出すた、て路調付道
の査よま。め遺お線査近路
業、っせ結に跡りにがに路
務記てん 試の、米行所舗

米岡2遺跡試掘調査



ritokei 離島経済新聞

なです魅メや行り日新海イ が
れあく力、結さ|本間洋) r が発
まな紹や島婚れベ唯コ研L i 行
すた介課人観て|一|修の t 離島
よもし題の、いパのナセバo 行
。離てなコ鳥ま|有|ンツk 季
島いどう留すで人にタクr 刊
のまをム学。、離あ|ナi 誌
事す親、の島年島り図ン(で
情。し離スの四専ま書バリある
通こみ島ス風回門す室|トる
にれやの 習発フ。のがケ

リトケイ読めます!

くし紙分いり気る入たぞ六
おま面なまだ分こ学。れ名島
願しづ取しいでと。二がが外
いたく材たぶして、の年生高
いた今を調、隔。広街前活への
し後目査こがさいの、を入島
まと指研れ空て、世生私始学
すもす究かい、界徒もめ、生
よこをらて前にと高ま、生
ると経はし号出交校しそも
しとた十まよたわへれ十

新衣之記録 (編集後記)

理宿利マたとん水床てン改の
室研用ラ。なで仕を老夕装旧昭
と修、ソ六つお事改朽|し奥和
なに八ン月てりに築化でて尻六
り使用にのはた利つまして、開高
ま用にの選ムと用てしい、さ学
ししは選ムと用てしい、三校に
た、大手|こ者床た。調十たの
。快学宿ろに板。調十たの
適生泊ラで不が長理年町校石
な先イし自た年室経民舎地
調合にト 由わののつセを区

町民センター調理室改築



SL C62 3号機のナンバープレート複製